

ヒメイバラモ イバラモ科

Najas tenuicaulis Miki

鳥取県：絶滅危惧 類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧 A類 (CR)

選定理由 生育環境悪化，局限・孤立，希少性。

生態・形態 湖沼などに生育する繊細な一年生沈水植物。茎は分枝し，ときにわずかの刺をつける。葉はきわめて少数で2～4個，長さ約2cm，幅1mm，粗歯牙がある，鞘は半円形，全縁。花期は7～10月，柱頭は3個。果実は楕円形，長さ4～5mm。イバラモに類似するが，葉が細く，歯牙が少数，茎の皮下細胞が1層（イバラモは2層）であることで区別。

分布 鳥取県東部の一部のみ（過去には本州に点在分布していたが，現在不明）。

県内の分布および分布図は省略。

保護上の留意点 厳重な採取防止。池の清掃や水草採取の際，ヒメイバラモも除去される可能性大のため，専門家の立ち会いが必要。水質の保全。